

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第5456437号
(P5456437)

(45) 発行日 平成26年3月26日 (2014. 3. 26)

(24) 登録日 平成26年1月17日 (2014. 1. 17)

(51) Int. Cl.

F 1

B 6 5 D 47/06 (2006. 01)

B 6 5 D 47/06

R

B 6 5 D 47/08 (2006. 01)

B 6 5 D 47/08

Z

請求項の数 2 (全 9 頁)

(21) 出願番号 特願2009-250447 (P2009-250447)
 (22) 出願日 平成21年10月30日 (2009. 10. 30)
 (65) 公開番号 特開2011-93577 (P2011-93577A)
 (43) 公開日 平成23年5月12日 (2011. 5. 12)
 審査請求日 平成24年5月7日 (2012. 5. 7)

(73) 特許権者 000006909
 株式会社吉野工業所
 東京都江東区大島 3 丁目 2 番 6 号
 (74) 代理人 100064908
 弁理士 志賀 正武
 (74) 代理人 100094400
 弁理士 鈴木 三義
 (74) 代理人 100106909
 弁理士 棚井 澄雄
 (72) 発明者 橋本 和紀
 東京都江東区大島 3 丁目 2 番 6 号 株式会
 社吉野工業所内
 (72) 発明者 早川 茂
 東京都江東区大島 3 丁目 2 番 6 号 株式会
 社吉野工業所内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 振り出しキャップ

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

容器本体の口部に取り付けられ、前記容器本体内の内容物を振り出すための振り出し口
 が設けられた筒形状のキャップ本体と、

キャップ軸に直交する垂直面に沿って延在する回転軸線周りに回転可能に取り付けられ
 、前記振り出し口を開閉する蓋体と、

を備える振り出しキャップであって、

前記キャップ本体が、前記容器本体の口部の開口端を覆う天壁部と、該天壁部の外周縁
 から垂下された周壁部とからなる有頂筒状に形成され、

前記キャップ本体の天壁部に、前記振り出し口を全局に亘って囲繞する筒状の囲繞壁部
 が立設され、

前記蓋体には、前記囲繞壁部の上方に配置される天壁部と、該天壁部の外縁から垂下さ
 れた周壁部と、が備えられ、

前記蓋体の周壁部の下端部と前記キャップ本体の周壁部の上端部との間には、前記蓋体
 と前記キャップ本体とを連結し、前記回転軸線回りに屈曲自在なヒンジが設けられ、

前記キャップ本体の天壁部の外周部上面には、外周に前記蓋体の周壁部の下端部が被せ
 られる筒部である嵌合部が立設され、

前記囲繞壁部は、前記嵌合部よりも上方に延在していることを特徴とする振り出しキャ
 ップ。

【請求項 2】

10

20

請求項 1 に記載の振り出しキャップにおいて、
前記蓋体には、この蓋体の周壁部の内側に配設されていると共にこの蓋体の天壁部の下
面から垂下され、前記圍繞壁部の内側に嵌入されるシール筒部が備えられ、
前記圍繞壁部のうち、前記ヒンジ側の部分は、他の部分よりも低く形成されていること
を特徴とする振り出しキャップ。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、例えば粉状或いは顆粒状の内容物が収容された容器本体の口部に装着される
振り出しキャップに関する。

【背景技術】

【0002】

この種の振り出しキャップとして、従来、例えば下記特許文献 1 に示されているような
、天壁部に振り出し口が形成されたキャップ本体と、このキャップ本体に回動自在に取り
付けられて前記振り出し口を開閉する蓋体と、を備えた構成のキャップが知られている。
詳しく説明すると、上記した蓋体は、キャップ本体の径方向一端側の側面から他端側の側
面まで延在する板状の部材であり、キャップ本体の天壁部上に配置されている。この蓋体
は、一端側の操作部を押し下げること、他端側が上方に跳ね上り、振り出し口を露出さ
せる開状態となり、また、跳ね上がった蓋体の他端部を押し下げること、振り出し口を
被蓋する閉蓋状態になる。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献 1】実公昭 56 - 28940 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

ところで、内容物として例えば調味料を容器本体内に収容した振り出し容器では、調理
中のフライパンや鍋の中に内容物を直接振り出すような使い方をする場合が多々ある。こ
のような場合、フライパンや鍋から立ち上がってくる蒸気等の高湿度雰囲気中で内容物を
振り出すので、内容物が湿気によって振り出し口に付着してそのまま固化しやすい。こ
のように振り出し口に内容物が付着して固化すると、振り出し口が目詰まりしたり、付着物
によって蓋体が完全に閉まらなくなったりする問題が生じる。よって、このような不都合
を回避するための対策が望まれている。

【0005】

しかしながら、この点、上記した従来の振り出しキャップでは、振り出し口がキャップ
本体の天壁部に形成されて露出されているので、使用時に蒸気等の湿気が振り出し口に直
接当たり易い。よって、湿気の影響によって振り出し口に内容物が付着して固化し易く、
振り出し口が目詰まりや蓋体の閉蓋不良の問題が生じ易い。

【0006】

本発明は、上記した従来の問題が考慮されたものであり、湿気による振り出し口に対す
る内容物の付着及び固化を抑制して振り出し口が目詰まりや蓋体の閉蓋不良を防止するこ
とができる振り出しキャップを提供することを目的としている。

【課題を解決するための手段】

【0007】

本発明に係る振り出しキャップは、容器本体の口部に取り付けられ、前記容器本体内の
内容物を振り出すための振り出し口が設けられた筒形状のキャップ本体と、キャップ軸に
直交する垂直面に沿って延在する回転軸線周りに回転可能に取り付けられ、前記振り出し
口を開閉する蓋体と、を備える振り出しキャップであって、前記キャップ本体が、前記容
器本体の口部の開口端を覆う天壁部と、該天壁部の外周縁から垂下された周壁部とからな

10

20

30

40

50

る有頂筒状に形成され、前記キャップ本体の天壁部に、前記振り出し口を全周に亘って圍繞する筒状の圍繞壁部が立設され、前記蓋体には、前記圍繞壁部の上方に配置される天壁部と、該天壁部の外縁から垂下された周壁部と、が備えられ、前記蓋体の周壁部の下端部と前記キャップ本体の周壁部の上端部との間には、前記蓋体と前記キャップ本体とを連結し、前記回転軸線回りに屈曲自在なヒンジが設けられ、前記キャップ本体の天壁部の外周部上面には、外周に前記蓋体の周壁部の下端部が被せられる筒部である嵌合部が立設され、前記圍繞壁部は、前記嵌合部よりも上方に延在していることを特徴としている。

【 0 0 0 8 】

このような特徴により、蓋体を開けた状態で高湿度雰囲気中に晒されても、振り出し口が圍繞壁部で囲まれているので、振り出し口への湿気の流れ込みが圍繞壁部によって阻害され、湿気が振り出し口に直接当たり難い。したがって、湿気が振り出し口まで到達し難く、振り出し口に内容物が付着し難く、また、振り出し口に内容物が付着しても固化し難い。

【 0 0 0 9 】

また、前記蓋体には、この蓋体の周壁部の内側に配設されていると共にこの蓋体の天壁部の下面から垂下され、前記圍繞壁部の内側に嵌入されるシール筒部が備えられ、前記圍繞壁部のうち、前記ヒンジ側の部分は、他の部分よりも低く形成されていてもよい。

また、本発明の参考例に係る振り出しキャップは、容器本体の口部に取り付けられ、前記容器本体内の内容物を振り出すための振り出し口が設けられた筒形状のキャップ本体と、キャップ軸に直交する垂直面に沿って延在する回転軸線周りに回転可能に取り付けられ、前記振り出し口を開閉する蓋体と、を備える振り出しキャップであって、前記キャップ本体に、前記振り出し口を全周に亘って圍繞する筒状の圍繞壁部が設けられ、前記キャップ本体が、前記容器本体の口部の開口端を覆う天壁部と、該天壁部の外周縁から垂下された周壁部とからなる有頂筒状に形成され、前記圍繞壁部が、前記天壁部に形成された開口縁から垂下されており、該圍繞壁部の下端に設けられた底部に前記振り出し口が形成された構成であってもよい。

【 発明の効果 】

【 0 0 1 0 】

本発明に係る振り出しキャップによれば、湿気が振り出し口まで到達しにくいので、湿気による振り出し口に対する内容物の付着及び固化を抑制することができ、内容物による振り出し口の日詰まりや蓋体の閉蓋不良を防止することができる。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 1 1 】

【 図 1 】 本発明の第 1 の実施の形態を説明するための振り出しキャップの縦断面図である。

【 図 2 】 本発明の第 1 の実施の形態を説明するための振り出しキャップの平面図である。

【 図 3 】 本発明の参考例の実施の形態を説明するための振り出しキャップの縦断面図である。

【 図 4 】 本発明の参考例の実施の形態を説明するための振り出しキャップの平面図である。

【 発明を実施するための形態 】

【 0 0 1 2 】

以下、本発明に係る振り出しキャップの第 1、第 2 の実施の形態について、図面に基いて説明する。

【 0 0 1 3 】

[第 1 の実施の形態]

まず、本発明に係る振り出しキャップの第 1 の実施の形態について図 1 及び図 2 に基づいて説明する。

なお、図 1 に示す鎖線 O は振り出しキャップ 1 の中心軸線を示しており、以下「軸線 O」と記す。また、本発明では、この軸線 O に沿った方向を「軸方向」とし、軸線 O に直交

10

20

30

40

50

する方向を「径方向」とし、軸線O回りの方向を「周方向」とする。また、本実施の形態では、軸方向の容器本体10側(図1における下側)を「下方」とし、その反対側、つまり軸方向の蓋体3側(図1における上側)を「上方」とする。

【0014】

図1、図2に示すように、振り出しキャップ1は、粉状或いは顆粒状の内容物を収容する容器本体10に装着されるキャップであり、例えば合成樹脂などからなる。この振り出しキャップ1の概略構成としては、容器本体10の口部11に装着されるキャップ本体2と、キャップ本体2の天壁部20に形成された振り出し口21を開閉する蓋体3と、を備えている。なお、上記した容器本体10の口部11は、軸線Oを中心軸線にして軸方向に沿って延在する円筒形状の筒部であり、この口部11の外周面には、雄ねじ12が形成されている。

10

【0015】

上記したキャップ本体2には、内容物を振り出すための振り出し口21が形成された天壁部20と、天壁部20の外周縁に垂設された周壁部22と、天壁部20の外周部上面に立設された嵌合部23と、天壁部20の上面に立設されていると共に振り出し口21を囲繞する筒状の囲繞壁部24と、が備えられている。

【0016】

天壁部20は、軸線Oに対して略垂直に配設された平面視円形の平板状の板部であり、容器本体10の口部11の上方に配設されて口部11の開口端を覆う壁部である。この天壁部20の下面には、口部11の上端面に全周に亘って密接する環状のシール部25が突設されている。また、天壁部20に形成された振り出し口21は、容器本体10の内部に連通する複数の貫通孔21aからなり、これら複数の貫通孔21aは、平面視において囲繞壁部24の内側全体に均等配置されている。

20

【0017】

周壁部22は、容器本体10の口部11に螺着される円筒形状の筒部であり、軸線Oを中心軸線にして軸方向に沿って延設されていると共に容器本体10の口部11の外側に周設されている。この周壁部22の内周面には、口部11の雄ねじ12に螺合される雌ねじ26が形成されている。

【0018】

嵌合部23は、蓋体3をアンダーカット嵌合する円筒形状の筒部であり、軸線Oを中心軸線にして軸方向に沿って延設されている。この嵌合部23の上端部の外周面には、径方向外側に突出した係合凸部27が全周に亘って形成されている。また、嵌合部23の外径は、上記した周壁部22の外径よりも小径であり、嵌合部23の下端と周壁部22の上端との間には段差が形成されている。

30

【0019】

囲繞壁部24は、略円筒形状の筒部であり、嵌合部23の内側に配設されていると共に軸線Oを共通軸にして嵌合部23と同軸上に延設されている。この囲繞壁部24は、嵌合部23よりも上方に延在されており、この囲繞壁部24の上端部は、軸方向上側に向かうに従い漸次拡径されている。また、囲繞壁部24のうち、後述するヒンジ4側の部分24aは、他の部分よりも低く形成されている。これにより、蓋体3の開閉時における後述するシール筒部32と囲繞壁部24との干渉が回避されている。

40

【0020】

上記した蓋体3は、キャップ本体2の天壁部20全体を覆う有頂筒状の蓋体であり、後述する回転軸線P周りに回転可能に取り付けられている。具体的に説明すると、この蓋体3には、天壁部30と、天壁部30の外縁から垂下された周壁部31と、周壁部31の内側に配設されていると共に天壁部30の下面から垂下されたシール筒部32と、が備えられている。

【0021】

天壁部30は、平面視円形の平板状の板部であり、図1に示すように閉蓋状態において、軸線Oに対して略垂直に配設されると共に囲繞壁部24の上方に配設されている。

50

【 0 0 2 2 】

周壁部 3 1 は、円筒形状の筒部であり、図 1 に示すように閉蓋状態において、軸線 O を中心軸線にして軸方向に沿って延在されている。この周壁部 3 1 の下端部の内周面には、周溝状の係合凹部 3 3 が全周に亘って形成されており、図 1 に示すように閉蓋状態において、蓋体 3 の周壁部 3 1 の下端部が嵌合部 2 3 の外周に被せられると共に蓋体 3 の係合凹部 3 3 の内側に嵌合部 2 3 の係合凸部 2 7 がアンダーカット嵌合される。

【 0 0 2 3 】

また、上記した蓋体 3 の周壁部 3 1 の下端部と上記したキャップ本体 2 の周壁部 2 2 の上端部との間には、蓋体 3 とキャップ本体 2 とを連結するヒンジ 4 が設けられている。このヒンジ 4 は、軸線 O に直交する垂直面に沿って延在する回転軸線 P 回りに屈曲自在な連結部であり、このヒンジ 4 によって蓋体 3 はキャップ本体 2 に対して相対的に回転軸線 P 回りに回転（開閉）可能となっている。また、上記したヒンジ 4 は、蓋体 3 及びキャップ本体 2 と一体に形成されており、蓋体 3 及びキャップ本体 2 は、ヒンジ 4 を介して一体に形成されている。また、蓋体 3 の周壁部 3 1 の下端部のうち、ヒンジ 4 の反対側の部分には、径方向外側に突出した摘み部 3 4 が形成されている。

10

【 0 0 2 4 】

シール筒部 3 2 は、振り出し口 2 1 を囲繞する囲繞壁部 2 4 を密閉するための円筒形状の筒部であり、図 1 に示すように閉蓋状態において、囲繞壁部 2 4 の内側に配設されると共に軸線 O を共通軸にして囲繞壁部 2 4 と同軸上に配設されている。また、シール筒部 3 2 の外径は囲繞壁部 2 4 の内径と略同径に形成されており、図 1 に示すように閉蓋状態において、シール筒部 3 2 の外周面は囲繞壁部 2 4 の内周面に全周に亘って密接されている。

20

【 0 0 2 5 】

次に、上記した構成からなる振り出しキャップ 1 の作用について説明する。

【 0 0 2 6 】

まず、上記した振り出しキャップ 1 が装着された振り出し容器の保管時には、上記した蓋体 3 が閉じておく。このような閉蓋状態では、蓋体 3 の天壁部 3 0 によって囲繞壁部 2 4 の上端が閉塞されると共に、囲繞壁部 2 4 の内側にシール筒部 3 2 が嵌入されてシール筒部 3 2 の外周面が囲繞壁部 2 4 の内周面に全周に亘って密接される。これにより、振り出し口 2 1 が設けられた囲繞壁部 2 4 の内部が気密状態となり、振り出し口 2 1 が設けられた囲繞壁部 2 4 の内部に外部の湿気が流入することが防止される。また、このとき、蓋体 3 の係合凹部 3 3 の内側に嵌合部 2 3 の係合凸部 2 7 がアンダーカット嵌合されて閉蓋状態が保持されるので、振り出し口 2 1 が設けられた囲繞壁部 2 4 内部の気密状態が保持される。

30

【 0 0 2 7 】

また、容器本体 1 0 内の内容物を振り出す際には、上記した蓋体 3 を開けた後、容器本体 1 0 内の内容物を振り出し口 2 1 から振り出す。詳しく説明すると、まず、蓋体 3 の摘み部 3 4 に指先等をかけて蓋体 3 を引き上げる。これにより、蓋体 3 の係合凹部 3 3 が嵌合部 2 3 の係合凸部 2 7 から外れ、折り曲げられたヒンジ 4 が開いて蓋体 3 が回転軸線 P 回りに回転する。そして、シール筒部 3 2 が囲繞壁部 2 4 内から引き抜かれて囲繞壁部 2 4 内が開放され、囲繞壁部 2 4 内の振り出し口 2 1 が露出される。その後、容器本体 1 0 を傾けると共に振り動作を行うことで、容器本体 1 0 内の内容物が振り出し口 2 1 から流出して外部に放出される。

40

【 0 0 2 8 】

このとき、仮に、振り出しキャップ 1 が蒸気等で高湿度雰囲気中に晒されても、振り出し口 2 1 が囲繞壁部 2 4 で囲まれているので、振り出し口 2 1 への湿気の流れ込みが囲繞壁部 2 4 によって阻害され、湿気が振り出し口 2 1 に直接当たり難く、湿気が振り出し口 2 1 まで到達し難い。このため、振り出し口 2 1 に内容物が付着し難く、また、仮に振り出し口に内容物が付着しても固化し難い。

【 0 0 2 9 】

50

上記した振り出しキャップ 1 によれば、開蓋状態において振り出しキャップ 1 が高湿度雰囲気中に晒されても、湿気が振り出し口 2 1 まで到達しにくいので、湿気による振り出し口 2 1 に対する内容物の付着及び固化を抑制することができ、内容物による振り出し口 2 1 の目詰まりや蓋体 3 の閉蓋不良を防止することができる。

【 0 0 3 0 】

[参考例の実施の形態]

次に、本発明に係る振り出しキャップの参考例の実施の形態について図 3 及び図 4 に基づいて説明する。

なお、上記した第 1 の実施の形態と同様の構成については同一の符号を付して説明を省略する。また、本実施の形態では、後述する蓋体 1 0 3 の押圧面 1 3 3 側 (図 3 における右側) を「後方側」とし、その反対側を (図 3 における左側) を「前方側」とする。

【 0 0 3 1 】

図 3、図 4 に示すように、振り出しキャップ 1 0 1 の概略構成としては、容器本体 1 0 の口部 1 1 に装着されるキャップ本体 1 0 2 と、キャップ本体 1 0 2 に設けられた振り出し口 1 2 1 を開閉する蓋体 1 0 3 と、を備えている。これらキャップ本体 1 0 2 及び蓋体 1 0 3 は別部材であり、キャップ本体 1 0 2 の天壁部 1 2 0 に蓋体 1 0 3 が組み付けられる構成となっている。

【 0 0 3 2 】

キャップ本体 1 0 2 には、容器本体 1 0 の口部 1 1 の上方に配設された天壁部 1 2 0 と、天壁部 1 2 0 の外周縁から垂下されて容器本体 1 0 の口部 1 1 に螺着される周壁部 1 2 2 と、が備えられている。天壁部 1 2 0 には、前方側の側面から後方側の側面まで延在する凹部 1 2 3 が形成されている。この凹部 1 2 3 は、蓋体 1 0 3 が嵌め込み可能な窪み部である。この凹部 1 2 3 の後方側の端部には、蓋体 1 0 3 の厚さよりも深く窪んだ深凹部 1 2 5 が形成されている。また、凹部 1 2 3 の底壁部 1 2 3 a には、平面視円形の開口 1 2 3 b が形成されており、この開口 1 2 3 b の縁部には、略円筒形状の圍繞壁部 1 2 4 が垂下されている。圍繞壁部 1 2 4 は、下方に向かうに従い漸次縮径されたテーパ状の円筒部である。上記した開口 1 2 3 b 及び圍繞壁部 1 2 4 は、凹部 1 2 3 の前方側寄りの位置に配設されている。また、圍繞壁部 1 2 4 の下端部には、圍繞壁部 1 2 4 の下端を閉塞する底部 1 2 6 が形成されており、この底部 1 2 6 に、複数の貫通孔 1 2 1 a からなる振り出し口 1 2 1 が形成されている。

【 0 0 3 3 】

蓋体 1 0 3 は、上記した圍繞壁部 1 2 4 の上端を覆って振り出し口 1 2 1 を閉塞するための蓋であり、上記した凹部 1 2 3 に沿って前後方向に延在する板材からなる。この蓋体 1 0 3 は、回転軸線 P 周りに回転して振り出し口 1 2 1 を開閉する回転蓋である。詳しく説明すると、蓋体 1 0 3 は、閉蓋状態において、軸線 O に対して垂直に配設されて上記した凹部 1 2 3 の内側に嵌め込まれており、蓋体 1 0 3 の上面は、キャップ本体 1 0 2 の天壁部 1 2 0 の上面と面一に形成されている。また、蓋体 1 0 3 の両側の側縁部には、深凹部 1 2 5 の側壁部 1 2 5 a に沿って延在する軸支持部 1 3 0 がそれぞれ垂設されており、この軸支持部 1 3 0 と深凹部 1 2 5 の側壁部 1 2 5 a に、凹状の軸受けと凸状の軸とからなる支承部 1 3 1 が設けられている。また、蓋体 1 0 3 の後方側の上面には、蓋体 1 0 3 を回転操作するための押圧面 1 3 3 が形成されている。また、蓋体 1 0 3 の下面には、閉蓋状態において、上記した圍繞壁部 1 2 4 の内側に着脱可能に嵌入されて圍繞壁部 1 2 4 の内周面に密接するシール筒部 1 3 2 が垂設されている。また、蓋体 1 0 3 の後方側の下面には、蓋体 1 0 3 を閉蓋方向に付勢する弾性片 1 3 4 が垂設されている。

【 0 0 3 4 】

上記した構成からなる振り出しキャップ 1 0 1 は、閉蓋状態では、蓋体 1 0 3 によって圍繞壁部 1 2 4 の上端が閉塞されると共に、圍繞壁部 1 2 4 の内側にシール筒部 1 3 2 が嵌入されるため、振り出し口 1 2 1 が設けられた圍繞壁部 1 2 4 の内部に外部の湿気が流入することが防止される。

また、上記した蓋体 1 0 3 の押圧面 1 3 3 を押圧することで、蓋体 1 0 3 が回転軸線 P

10

20

30

40

50

回りに回転する。これにより、シール筒部 1 3 2 が囲繞壁部 1 2 4 内から引き抜かれて囲繞壁部 1 2 4 の内部が開放され、囲繞壁部 1 2 4 内の振り出し口 1 2 1 が露出される。このとき、仮に、振り出しキャップ 1 0 1 が蒸気等による高湿度雰囲気中に晒されても、振り出し口 1 2 1 が囲繞壁部 1 2 4 で囲まれているので、湿気が振り出し口 1 2 1 に直接当たり難く、振り出し口 1 2 1 に対する内容物の付着や固化が防止され、振り出し口 1 2 1 の目詰まりや蓋体 1 0 3 の閉蓋不良を防止することができる。

【 0 0 3 5 】

以上、本発明に係る振り出しキャップの第 1、参考例の実施の形態について説明したが、本発明は上記した実施の形態に限定されるものではなく、その趣旨を逸脱しない範囲で適宜変更可能である。

10

例えば、上記した第 1、参考例の実施の形態では、キャップ本体 2 , 1 0 2 の周壁部 2 2 , 1 2 2 が容器本体 1 0 の口部 1 1 に螺着されることで、振り出しキャップ 1 , 1 0 1 が容器本体 1 0 の口部 1 1 に装着される構成となっているが、本発明は、他の構造で振り出しキャップ 1 , 1 0 1 を容器本体 1 0 の口部 1 1 に装着させることも可能であり、例えばアンダーカット嵌合などによって装着させることも可能である。

【 0 0 3 6 】

また、上記した第 1、参考例の実施の形態では、閉蓋状態において、囲繞壁部 2 4 , 1 2 4 の内側に嵌入されるシール筒部 3 2 , 1 3 2 が蓋体 3 , 1 0 3 に備えられているが、本発明は、シール筒部が囲繞壁部 2 4 , 1 2 4 の外周に嵌着される構成であってもよく、また、シール筒部を省略することも可能である。

20

【 0 0 3 7 】

その他、本発明の主旨を逸脱しない範囲で、上記した実施の形態における構成要素を周知の構成要素に置き換えることは適宜可能であり、また、上記した変形例を適宜組み合わせてもよい。

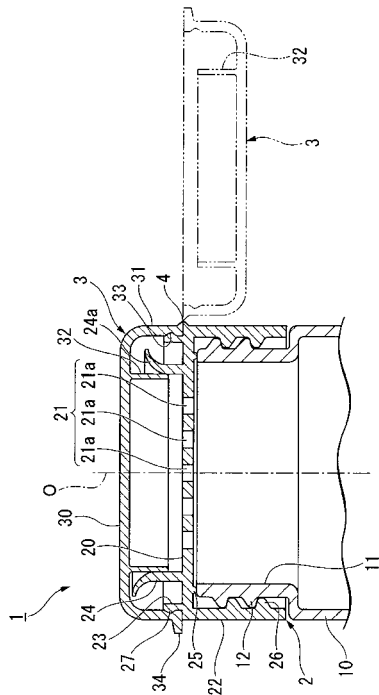
【 符号の説明 】

【 0 0 3 8 】

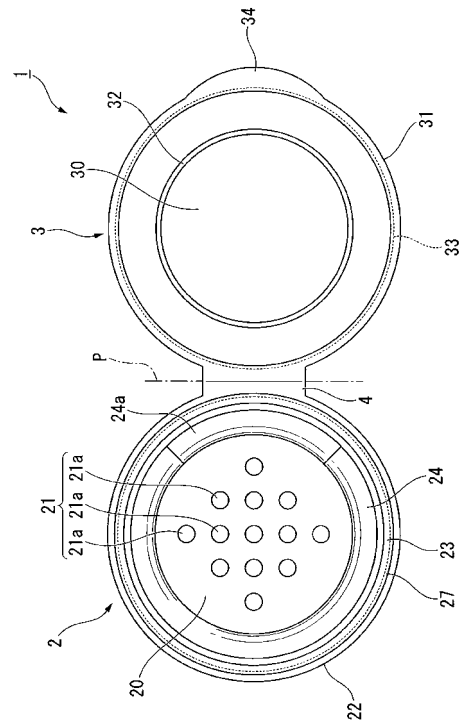
- 1、1 0 1 振り出しキャップ
- 2、1 0 2 キャップ本体
- 3、1 0 3 蓋体
- 1 0 容器本体
- 1 1 口部
- 2 0 , 1 2 0 天壁部
- 2 1 , 1 2 1 振り出し口
- 2 4 , 1 2 4 囲繞壁部
- 1 2 6 底部
- 軸線（キャップ軸）
- P 回転軸線

30

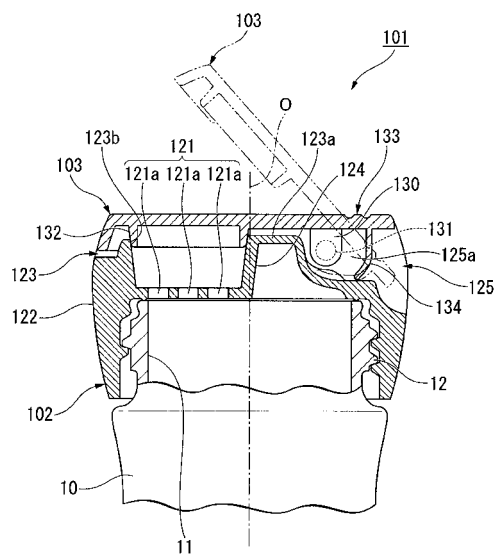
【図 1】



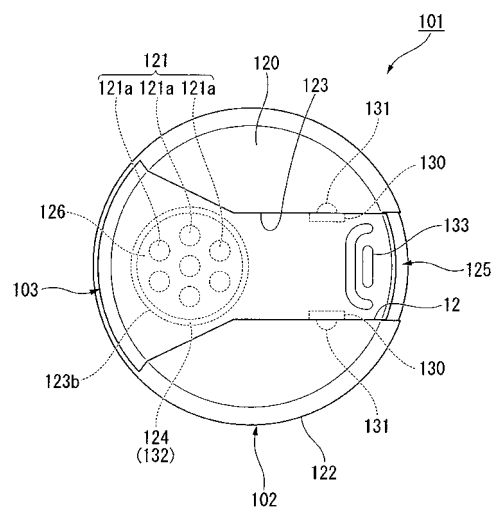
【図 2】



【図 3】



【図 4】



フロントページの続き

審査官 長谷川 一郎

- (56)参考文献 特開平10-167302(JP,A)
特開2008-189318(JP,A)
実開昭54-160432(JP,U)
実開昭52-035379(JP,U)
実開昭48-037178(JP,U)
特公昭63-40754(JP,B2)
実開平4-16966(JP,U)

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
B65D 47/06
B65D 47/08